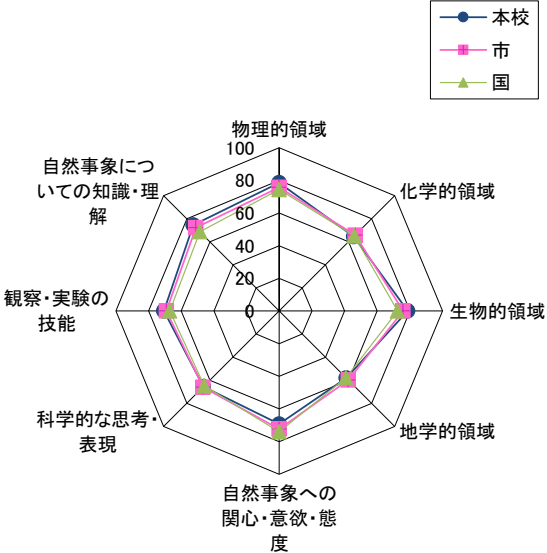


宇都宮市立陽南中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	78.5	75.7	74.4
	化学的領域	64.5	65.8	65.0
	生物的領域	78.7	75.9	72.5
	地学的領域	58.1	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	69.2	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	65.6	66.0	64.9
	観察・実験の技能	70.6	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	74.4	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○平均正答率は他の領域と比べて高い。 ○電流に関する正答率が高く、多くの生徒が内容を把握していることがうかがえる。実験で得た電気回路の接続方法を電気用図記号を用いて回路図に表したり、実験結果の読み取りからオームの法則を繰り返し練習したり、丁寧に指導した結果が出ていると考えられる。	・課題を解決していくために、実験の方法や実験結果を整理し、表やグラフに表す技能を指導していく。また、データの読み取りや規則性を見出したりする学習場面の設定をし、演習を繰り返し行い、理解度を高めていきたい。
化学的領域	○原子記号や発熱反応、ガスバーナーの使い方などおおむね理解できている。 ○選択式と短答式の問題の正答率は、市、国の平均を上回った。 ●領域全体としては、市、国の平均を下回った。記述式の正答率が低い。	・記述式の正答率が低い。探求の場面の振り返りにおいて、疑問に思うことや感じることをノートやワークシートに記録する活動を取り入れていく。生徒の多様な疑問を受け入れ、生徒が主体的に探究を深めるように助言したり、探究する活動を促すようにする。
生物的領域	○平均正答率は他の領域と比べて高い。 ○神経系のはたらきについての知識は市、国の平均を大きく上回っている。 ●記述式の正答率が低い。	・基礎が定着している生徒が多いので、発展問題の取組を強化していく。基礎の定着が必要な生徒には、丁寧に基礎を指導する。 ・実験、観察では、意図的に変えていく条件、変えない条件を整理して板書するなど工夫し、生徒が予想や見通しをもって授業が展開していくようにする。 ・実験、観察を行った際に、考察の記入に取り組みやすいように、本時のねらいやキーワードを明確にする。
地学的領域	○震度計のデータの読み取りの正答率が高い。また、初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係についてもおおむね理解できている生徒が多い。 ●天気分野についての正答率が市より下回っている。	・台風の知識や天気図の読み取りなど、特徴をとらえていないことが課題である。図や写真の提示を増やし、イメージしやすいように授業を工夫していく。 ・天気に関連した生徒の生活体験を引き出す発問を増やすなどし、生徒の関心を高め、天気の特徴の理解度を深めていきたい。